

2020 コレクション展 III

天国 と 地獄

Heaven and Hell

Collection Exhibition III
Heaven and Hell

8.7 fri →
9.29 tue



真島直子《脳内麻薬2》2015年 寄託品

前期 8月7日(金)～9月1日(火) 後期 9月3日(木)～9月29日(火)

● 9月2日(水)は展示替えのため休展

開館時間 10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は10:00～20:00(入場は閉館の30分前まで)

会場 大分県立美術館 3階 コレクション展示室

観覧料 一般 300(250)円 大学・高校生 200(150)円 中学生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金

※大分県立芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料

※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料

※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料

OPAM 大分県立美術館
Oita Prefectural Art Museum

天国と地獄

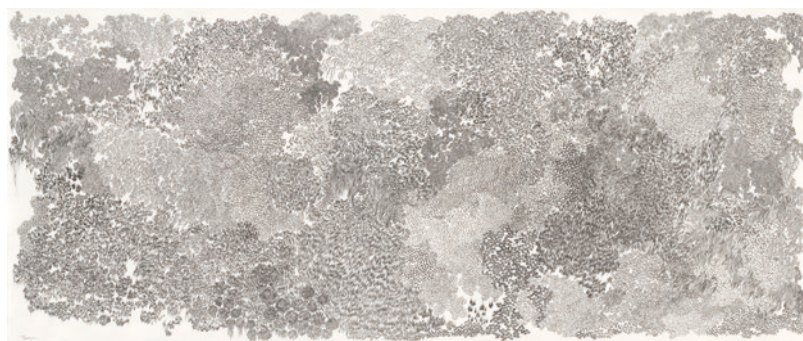
Heaven and Hell

洋の東西を問わず「天国」と「地獄」は、信仰において現れるだけではなく、日常の生活においても、身近な言葉や概念として使われてきました。

キリスト教では、「天国」は正しい生活を送った信徒の霊が死後永久の祝福を受ける場所を、「地獄」は神の教えに背いた者、罪を犯して悔い改めない魂が陥って永遠の苦を受ける世界を意味しています。仏教では、「極楽」は西方十万億土の彼方にある、^{くぼん}廣大無辺にして諸事が円満具足し、この上なく安楽な苦患のない世界を、「地獄」はこの世で悪事をした者が死後に苦しみを受ける場所としています。

私たちの日常生活においても、快適な環境や理想的な世界のことを「天国」や「極楽」と言い、「試験地獄」など、非常に苦しみをもたらす状態や境遇を例えて「地獄」と言うことがあります。

コレクション展IIIでは、当館の所蔵作品の中から、仏や神などのほか、近世の画人たちが夢みた桃源郷や現代人の精神の葛藤など、「天国」と「地獄」のイメージに関連した作品を展示します。ぜひ、会場で作家たちの想像力豊かな作品の数々をご覧ください。



1	2	3	4
5	6		

1 四谷シモン《天使の羽》1992年 利岡コレクション

2 佐藤溪《辯財天》1952年

3 広瀬通秀《モニュメントレクイエム》1979年

4 宇治山哲平《精》1976年

5 高山辰雄《聖家族その10》1976年

6 真島直子《地ゴク楽》2002年 寄託品

ギャラリートーク

8月9日(日)・23日(日)、9月6日(日)・20日(日)

14:00～15:00

予約不要、要覧覧券観覧券

※ギャラリートークの予定は変更になる可能性があります。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。

同時期開催中の企画展

西洋絵画400年の旅

・珠玉の東京富士美術館コレクション・

7月22日(水)～9月6日(日) 1階 展示室A

